

豊かな生き物を育む水田づくり



箱庭の里 奥嶋の集い

概要

- 近江八幡市島町は市の最北部に位置し、三方を山に囲われ、南東部に面して開けた農村地帯で、琵琶湖へ流入する一級河川長命寺川（ちょうめいじがわ）に隣接した約40haの水田地帯。
- 当町の基幹排水路は一級河川長命寺川に直接流入しており、近年のゲリラ豪雨や大型台風による想定外の雨水被害も出始めている。
- 土壌は粘質土で、水はけが悪く、暗渠排水の効果が出ない農地も一部点在し、転作の麦作には適さない。
- 近年（20年位）、イノシシによる農作物の被害が増加し、土地改良未整備地は耕作放棄が出始めている。
- 三方を山に囲われていることから風通しは悪く、水稻のいもち病の発生が多い。

位置図 (近江八幡市島町)



位置図 (近江八幡市島町)





位置図

ビオトープ池

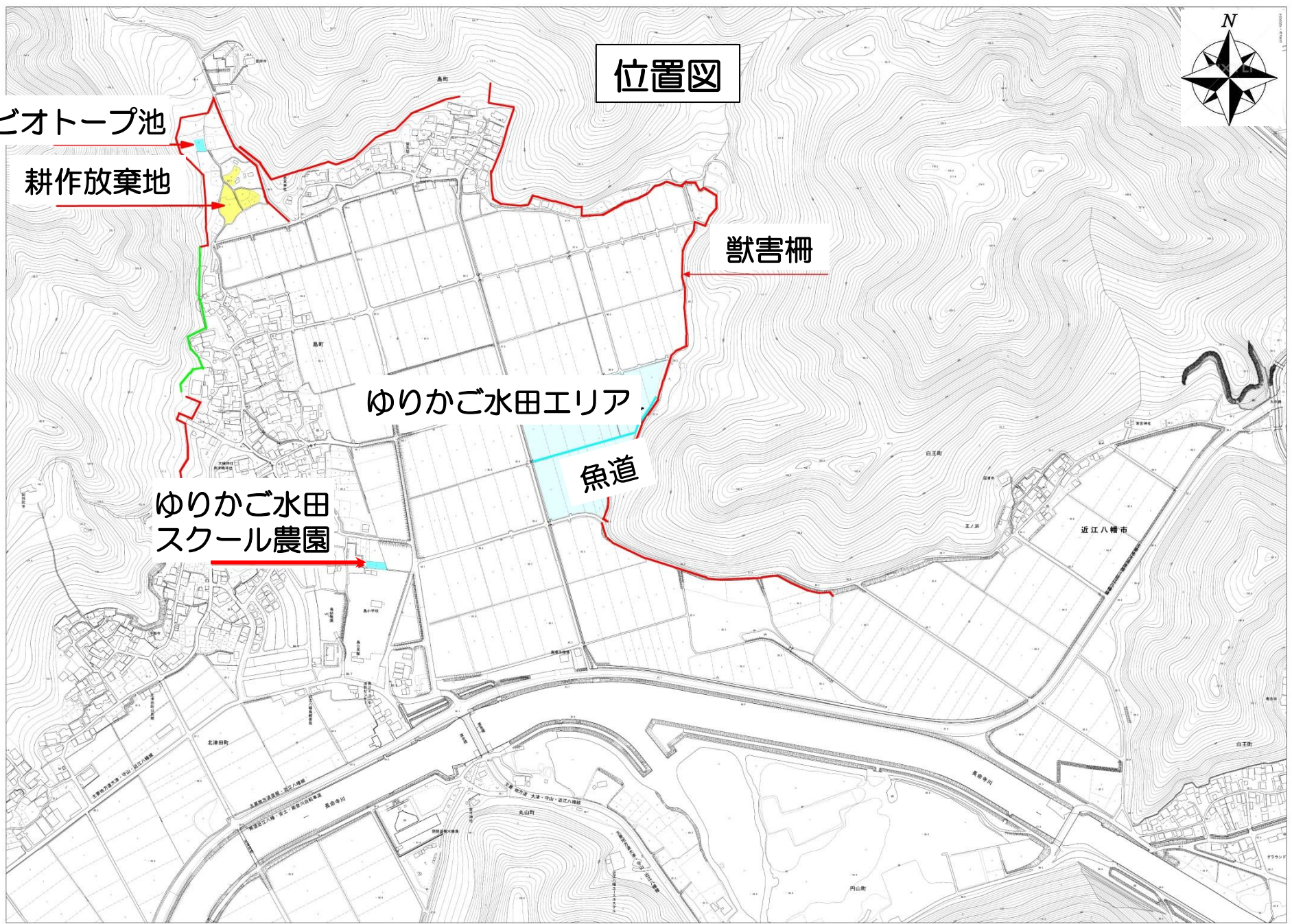
耕作放棄地

獣害柵

ゆりかご水田エリア

魚道

ゆりかご水田
スクール農園



経過

- 平成19年度から始まった「農地・水・環境保全向上対策事業」に、当町は「箱庭の里 奥嶋の集い」という名称で組織を立ち上げ。
- 農業従事者の高齢化、遊休農地の増加に伴い、本来生産の場である農地を健全な状態で保てなくなっていることは、生産性の低下だけでなく、地域全体の環境保全面でもいろいろな弊害を生み出している。また、環境問題に対しては、その地域だけでなく周辺地域、共有している資産（琵琶湖や長命寺川など）を一体として、多方面から同じ方向性に基づいて活動することが必須になってきている。
- 当町の北山田、東山田と呼ぶ地域は圃場整備から外れ、耕作条件が悪く、結果としてその殆どが遊休地化していた。